

令和 7 年度 第 2 回
(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

日 時 令和 7 年 9 月 1 日 (月) 10:00~12:00
場 所 富士宮市役所 1 階 112・113 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 市民説明会および「郷土資料館の歩みから博物館を考えるフォーラム」
の実施報告

資料 1

別紙 1

別紙 2

(2) 第 1 回ワークショップの実施報告

資料 2

別紙 3

(3) 参考事例調査の報告

資料 3

(4) 事業活動計画 (案)

資料 4

(5) ネットワーク計画 (案)

資料 5

(6) その他

3 閉 会

資料1

（1）市民説明会および「郷土資料館の歩みから博物館を考えるフォーラム」 の実施報告

ア 市民説明会

		会場	人数
1	6月26日（木）19:00～	芝川公民館	11
2	6月27日（金）19:00～	上井出出張所	34
3	6月29日（日）13:30～	芝川公民館	18
4	7月1日（火）19:00～	駅前交流センターきらら	47
5	7月5日（土）13:30～	上井出出張所	12
6	7月12日（土）13:30～	市役所特大会議室	25
合 計			147

説明会でいただいたご意見 → 別紙1

イ 郷土資料館の歩みから博物館を考えるフォーラム



参加者 47人

日時 令和7年7月27日（日）13:30～16:00

会場 富丘交流センター 集会室

内容 基調講演 渡井一信さん 「郷土資料館の歩みから博物館を考える」

渡井正二さん 「私と郷土史」

博物館についての語り合い 須藤秀忠市長、渡井一信さん、渡井正二さん

アンケートご意見抜粋 → 別紙2

市民説明会でいただいたご意見

■既存建物の活用

- ・文化財保存管理は重要だが、新たな建物を建てないことも考えてほしい。
- ・学校の統廃合や公共施設の管理を含めて考えるべき
- ・商店街の空き店舗活用
- ・図書館を利用しては
- ・高校の統廃合で使わなくなる校舎を生かしては。
- ・廃校を利用して成功している博物館もある

■収蔵

- ・市内の収蔵物の保管状況についてとても心配
- ・資料を劣化させないでほしい
- ・収蔵状況を今すぐ改善してほしい。
- ・資料は1か所に集めたほうが良い
- ・建物をコンパクトにすると、将来収蔵ができなくなる。

■整備費

- ・令和3年度の構想時点で17.4億～22.6億円。4年たって物価も上がっている。
- ・お金をかけてでもきちんとした教育の場を整備してほしい

■維持費

- ・人件費や維持管理費など、年間どのくらいかかるか
- ・こどもの負担になる

■財源

- ・財源（入場料、自己収入、寄付金など）は
- ・施設を有料にするか、無料にするか

■活動内容

- ・ただ展示する、箱物を作るだけでなく、どのように活用していくか市民が納得できればよい。
- ・富士宮には様々な歴史がたくさんある。縄文時代など多いが、戦争など近代のことも取り上げてほしい。
- ・デジタルではほかの博物館と変わらない。直に触れられるものがあるとよい。
- ・デジタルも必要だが、実物をきちんと保存する必要がある。
- ・デジタル化してだれでも見られるようにしては。
- ・デジタルデータをサーバに保存しておくべき。
- ・海外の人は市内をよく歩く。博物館がその拠点になるとよい。
- ・世界遺産センターと棲み分けを
- ・人口減少や子どもたちに直結するものという意見もあるが、郷土に愛着を持てば、UターンIターンのきっかけになる。こどものうちに、将来に向けたいろいろな選

択肢の種をまかなければ芽は出ない。

- ・お囃子などのデモンストレーション

■候補地

- ・場所は決まっているのか
- ・きらら駐車場にすると、駐車場が減ってしまう。
- ・きららに決まっているのか。

■議会

- ・建物を作ることは決まっていなくてよいのか。
- ・議会で決まったら、市民の意見は通らないということか。

■施設整備

- ・美術館などを併設しては
- ・規模ありきでなく、コンパクトでも充実した展示を
- ・3Dデジタル化すれば、博物館に展示する必要がない
- ・駅前のコワーキングスペースなどとの連携
- ・売店
- ・市民生活にいかに関与できるか。休憩場所や市民作品の展示など。
- ・子どもたちを巻き込んで作ってほしい。

■説明内容

- ・地域に博物館がある意義を伝えていくべき
- ・建物の規模感がわかりにくい
- ・回数が少ないのでは。

■ほかを優先すべき

- ・災害対策に優先して今やらなければならない理由は
- ・博物館より公園を整備してほしい
- ・富士宮市に住みたい人、子育てをしたいと思う人を増やすほうが先。
- ・少子化対策に取り組むべき
- ・道路やカーブミラーを直してほしい。
- ・歴史好きな人が増えてから作っては
- ・市立病院にお金をかけてほしい

■名称など

- ・「郷土史博物館」で決まりではないということではないか。
- ・愛称があるとよい
- ・キャラクターがあるとよい。
- ・建物の外観が重要。写真を撮りたくなる建物に。
- ・博物館はエンターテインメント。そういう方面の人の意見を聞いてほしい。

フォーラム アンケートご意見抜粋

別紙2

なぜ今頃博物館なのか？本来ならば昭和50年代～60年代に建設して欲しかった。2050年には富士宮市の人口は8万人台まで減少すると推測されているときに、維持できるのか？税収もかなり減ってくる。

①博物館を防災拠点としての利用活用できるようにして欲しい。

②資料リストを富士宮市ホームページで公開して欲しい。

我々は年齢も高齢なので博物館ができる事は見れないかもしれないが、今の子供が歴史に関心を持つか分からないが、ないよりある方がいいかもしれない。

博物館の建設に対しては、規模や予算、場所などの議論が先行しすぎており、博物館そのものの重要性がしっかりと議論されていないように感じる。

基本計画の策定に向けては、そこの議論もしっかりしていただき、適正な規模の拠点施設が出来れば良いと思っている。

現在、そして将来の若い世代の人々のために、是非富士宮市として素晴らしい博物館を作っていただければと思う。

ただ、「郷土史博物館」という名称にすると、地元の古いものだけしか扱わないというイメージを抱いてしまう。現代社会へとつながる歴史や文化をターゲットにしていることも意識しながら、もっと魅力的な名称を考えてほしい。

また、施設の規模も必ず手狭になってくる。予算の問題もあるが、しっかりとした運用のあり方を踏まえて、余裕のある施設作りを求める。

博物館建設に対する意見が様々ある。これら異なる意見を出し合う場として参加したが、聞くだけとは。

「博物館を考える」場合、文化財等に対する価値をどうとらえるのかによって大きく異なる。

価値が無いと考えれば金をかける事に反対となる。価値が有と考えれば、管理、保管にお金をかける事に賛成となる。博物館にこだわらず、管理保管する為の施設として、博物館相当施設として、建設することも選択肢としてあると思う。

博物館に向かうステップアップとして文化財の価値、その保管、管理についてもっと強調した方が良くと思う。文化財の保管・管理は必要と思う。

当局の建てたいという前提でのフォーラム。参加者の意見を聞けると思い参加したが、物足りない。

博物館の必要性について、様々な意見を聞くことができた。特に渡井正二先生の「子供が地域のことを学べる」場としての必要性は共感した。

市民は財政的な心配をする話を聞くが、納得していただけるような説明が大事。

箱物はキライだが、博物館は必要。郷土愛の核となる、学びの場となる、人を育む場として推進をお願いしたい。

ただ人工物を作って、きれいに観光するだけでなく、渡井先生のように、郷土を誇れる人材の育成が一番大切である事を大切にして、博物館の運営をお願いしたい。（渡井先生のような）富士宮の歴史郷土愛を誇れる人材の育成！箱物を作って終わりでない！

こどもたちと一緒に地域を学ぶ手がかりとなる場、また、こどもたちが生き生きと学ぶ場としての博物館の役割の重要性について改めて実感しました。

他の市を訪れると郷土資料館や博物館等が一つの市でいくつもあったりする。 それを見るたびに富士宮にはなぜ博物館が無いのだろうとよく思っていた。 富士山のふもとの富士宮市に郷土資料館、博物館は必要だと思う。 そしてパネルの掲示だけではなく、渡井正二先生の様に、郷土史、郷土愛を熱く語れる人材が必要だと思う。熱い学芸員さんも是非！
どのように富士宮の歴史や文化を次世代の子供たちに伝えていくか、その一つの有力な方法として博物館があることを理解した。ただ、ハコだけではなく、ソフトの人材も必要だと感じた。
郷土資料館、誰のために建設するのか。”古きを知って新しきに” 富士宮市の文化を知ることは大切である。富士宮市民の誇りになる事項を知ることは必要。 次の代に伝えるべき子供が年々少なくなる富士宮はいかがなものか。 長泉町は子供が増えている、なぜか？ 富士宮市で子供を産みたい・子育てしたい、そのような市になってほしい。
渡井正二先生の子供時代からの郷土への興味を足で学んだ話と、歴史の文化財、資料、土地等の保管が重要で、それらを展示、公開し、子供達に見せ、教える事が必要であると解った。
なぜ富士宮市に博物館が必要なのか!?なぜ今「博物館」なのか？社会(教育)とは、何か？ 社会とは人が集って生活を営むその集団：歴史、地理とはそれを取りまく周辺状況であり環境であり、人の生活に切っても切れないモノ。 人が生きていくには将来予測が必要で、それには周辺状況、特に過去の出来事は大切である。 人々が平和で文化的な生活を続けていくにはその周辺における出来事を知っておくことは必要であるということか。 『地域の活力の向上』には経済活動との連携が必要と考えるが『小さな博物館』で良いのか？
私は、郷土博物館は必要だと考える。 富士宮の歴史・文化・資料・文化財を適切に展示・保管し、後生に伝える博物館を何とか作ってほしい。 また、観光の情報発信を行っており、点在する歴史をどう伝えれば良いか、日々悩んでいる。
博物館の必要性を強く感じた。是非とも博物館を作っていただきたい。富士宮の歴史を知ることは未来への投資だと思います。
将来の担い手となる人たち（今の子供達）へ残せるものを作ること、博物館の必要性を理解することができた。博物館を建てることで、富士宮市をもっと知ることや、色んなことがあるすばらしいまちと感じてもらえるといい。
人の記憶を次代に伝えるための収蔵、調査研究の拠点として、また必要であると認識をあらたに持った。 現在の収蔵物及び市内に眠っている文化財を考えると、博物館は安易に縮小するのではなく、できるだけ大きく作っておいたほうがよいのでは。
博物館の建設は是非作ってほしいが、市長案のきらら駐車場は反対。 平日でも市の中心部は道路混雑がひどく、日常的な買い物や通院など市民生活に支障がでている。 また、せっかく作るのなら狭い所にこじんまりとした中途半端な物を作るのではなく、十分な広さの展示室収蔵室があり充実した楽しい施設を作ってほしい。

（2）第1回ワークショップの実施報告

（仮称）郷土史博物館基本計画策定ワークショップ～富士宮市に必要な博物館とは～①

日 時 令和7年7月19日（土）13:30～16:00（次回9月27日（土））

会 場 市役所7階 特大会議室

参加者 14人（3グループに別れ、各グループに学芸員が入る）

内 容 ① 富士宮市ってどんなまち？
ア 富士宮の良いところ、自慢できるところ
イ 富士宮がもう少しこうであれば良いなと思うこと

② こんな博物館が富士宮にあったらいいな



ワークショップでいただいたご意見 → 別紙3

ワークショップでいただいたご意見

別紙 3

① 富士宮市ってどんなまち？

ア 富士宮の良いところ

意見	分類	補足
富士山がどこからでも見える	景観	
障害物なしで見える	景観	
方角がすぐ分かる	景観	
広い市	自然環境	
自然豊か	自然環境	
山河に恵まれている	自然環境	
美しい景色	自然環境	
真反対の顔の富士山が見られる	自然環境	
空気がきれい（朝霧高原）	自然環境	
水が豊か、綺麗、美味しい、水の町	自然環境	展示・体験内容 （水の歴史文化）
夜景、夜空が綺麗	自然環境	
静か	自然環境	
変化に富んだ気候	自然環境	
水族館（マス、メダカ、イナゴ）	自然環境	
災害が比較的少ない	自然環境	
気温、気候が良い	自然環境	
雪が降らない、積もらない	自然環境	
酒がうまい	食文化	食文化
自慢できるグルメがある。食べ物がおいしい（そば、海の幸と山の幸がある、たまごの生産が盛ん、乳製品、スイーツ）	食文化	食文化
ヤキソバの製麺所にこだわりがある。ソースへのこだわりが強い	食文化	食文化
浅間大社がある、おひざ元	浅間大社	町の歴史文化
お囃子を中心とした生活が市の中心部で行われている	浅間大社	祭り文化
コワーキングスペース、ビジコネ、高校生会議所など産業と市民が結びついている	産業・市民活動	産業との連携
農業盛ん	産業・市民活動	農業の歴史
農作物へチャレンジする人も多い	産業・市民活動	
首都圏に近い	地理・交通	
運転がやさしい	地理・交通	
ディズニーシー日帰り	地理・交通	
日本のほぼ中心	地理・交通	
高速道路が複数	地理・交通	
良い意味田舎	人・暮らし	
宗教施設の数	人・暮らし	信仰文化
今も残る富士山信仰	人・暮らし	信仰文化
小さいお塔ばを持って墓参りする。	人・暮らし	信仰文化
文化・交通の交点（日本の東西、海・山などの交差点）	人・暮らし	道の文化
人として優しさがある	人・暮らし	

意見	分類	補足
平和	人・暮らし	
移動、定住の方にも丁寧に対応している	人・暮らし	
市(行政)と市民の関わりは良いほう	人・暮らし	
昔から人が集まる場所（浅間大社など）	人・暮らし	
誇りを持つ人々の集まりも多い 文化・芸術	人・暮らし	
図書館、生活、交通が便利	人・暮らし	
駐車場	人・暮らし	
排他性が少ない	人・暮らし	
犯罪が少ない	人・暮らし	
人が少ない感があって自由度が高い	人・暮らし	
公共的なものが安く利用できる	人・暮らし	
ゴミ出しフリー	人・暮らし	
歩く博物館事業に力を入れている	歴史文化	
石造物が多い	歴史文化	
日本最新の開拓地	歴史文化	開拓の歴史
富士山と共に歩んでいる歴史	歴史文化	富士山文化
有形・無形の文化財がある	歴史文化	文化財
門前町と宿場町の両面がある	歴史文化	町の歴史文化
大鹿窪遺跡がある	歴史文化	
歴史のある街	歴史文化	
知られざる歴史がいっぱい	歴史文化	

イ 富士宮がもう少しこうであれば良いと思うこと

意見	分類	補足
水路の安全確保	安全安心	
車の運転が荒い	安全安心	
防災体制に不安	安全安心	
19:00以降の公共交通、高速バス	交通	
交通インフラの整備	交通	
道路	交通	
通勤・通学時間帯の渋滞	交通	
自転車道の整備	交通	
自転車置き場の充実	交通	
公共交通不便	交通	
竹で遊ぶ施設	施設・設備	体験
スンプ匠宿みたいな施設	施設・設備	体験
街中の会議スペース、設備	施設・設備	博物館整備に向けて
一里塚から休憩所	施設・設備	博物館整備に向けて
ワンストップ子供施設	施設・設備	博物館整備に向けて
一般の方々と共に楽しめる全人的なフリー感ある場（ハード、ソフト）	施設・設備	博物館整備に向けて
文化的な設備がない	施設・設備	博物館整備に向けて
富士の市役所 屋上に展望する所	施設・設備	富士山展望施設
市民作品の展示場所に駐車場がほしい	施設・設備	
滞在したいと心揺さぶる自然を生かしたリーズナブルな体験や施設（〇〇センターでなく小規模でよい）	自然環境	体験
水にまつわる多様性、水がない地域もある、水だけで歴史が語れそう	自然環境	水の歴史
森林を活用しきれていない	自然環境	
富士山学習が1990年代から行われている	その他	教育
体験講座の年齢制限をなくす	その他	博物館整備に向けて
少しのSF要素により、土器片の一つとってもなければ今の自分はないと思えるようになる。説明版などの情報に難易度レベルを設けて攻略性を持たせる。	その他	博物館整備に向けて
今のままでよい	その他	
予算の明瞭化	その他	
広報がうるさくて静かさが失われている	その他	
高齢化、少子化を支えるための市長団体企業による活動を積極的に	その他	
開発を進めてほしくない	土地利用	
残土等のすて場	土地利用	
おみやげ	にぎわい	商業
書店が少ない（専門書高い…）	にぎわい	商業

意見	分類	補足
商業地域がさびれている	にぎわい	商店街
中心地が寂しい	にぎわい	商店街
ラーメン屋	にぎわい	
アニメの聖地	にぎわい	
大企業誘致	にぎわい	
北部の過疎化	にぎわい	
大学	にぎわい	
車いすなどでも歴史文化と触れ合えるユニバーサルデザインの拠点を作る	バリアフリー	博物館整備に向けて
身体、病や心身的障害ハンディを持ち生きていく方々と	バリアフリー	博物館整備に向けて
返納者、障がい者、ベビーカーの親もいける施設	バリアフリー	博物館整備に向けて
歩道、階段	バリアフリー	
市民の声をきいてくれる 不足	人・暮らし	
市民無料 県外・観光客有料システム	人・暮らし	
道路に草生えがち	人・暮らし	
ベンチに屋根	人・暮らし	
市民無料 観光客有料	人・暮らし	
文化が生かされていない	文化の活用	
遺跡遺構、古文書など保存と維持	文化の継承課題	博物館整備に向けて
少子化による文化の伝承の困難	文化の継承課題	
人口減少による、文化財の埋没	文化の継承課題	
伝統を守りつつ新たな担い手を育てる活動、発想の転換	文化の継承課題	
隣の市町の連携	まちづくり	市町
統一的な町づくりがされていない	まちづくり	
水族館	水の活用	
湧水をもっと活用できれば	水の活用	
水があっていい面、悪い面が分かれるといい	水の活用	

② こんな博物館が富士宮にあったらいいな

意見	博物館検討分類	補足
(アクセスが良い) シャトル(送迎)バスがある博物館	アクセス	
宮バスなど行きやすい	アクセス	
0歳～100歳まで、幅広い世代で楽しめる博物館、家族の憩いの場	あり方	憩いの場
アミューズメント、雨の日・暑い日に行く選択肢になれば	あり方	居場所
地域総がかりでの子育てのためのインフラとなる	あり方	連携
老若男女問わない	あり方	
「今までの、今の富士宮らしさ」を自分の中に落とし込むことで「これからの富士宮らしさ」を考え築く土台となる。「富士宮とはこういうまち」という名刺になるもの。	あり方	
ほぼ一日ぶらぶらできるような施設	あり方	
どの年齢ステージでも『学びたい』『触れたい』『遊びたい』を気軽に始められる。	あり方	
他のイベントと共催	運営	連携
半券やスタンプカードで、市内の店や交通手段でサービスを受けられる	運営	連携
歩く博物館と双方向性で相乗効果を生み、バリアのある人も見られる中核づくり。	運営	連携
基金…商業関係 企業、学校、アートフェス、大学 etc 創設＝未来へ	運営	
撮影OK	運営	
文化財オペレーションコストの確保	運営	
集めたものをワンストップに収納	運営	
人数確保、レファレンスに対応	運営	
博物館設置の地域の行事や通りの名称に博物館の名をつける	運営	
さくやちゃんみたいなキャラクターで愛着を	運営	
ネーミングは公募で	運営	
自由に出入りできる無料の公共施設	運営	
学校の見学で来る→また来たい！と思わせる仕組み 子供が家族を誘いたくなる	運営	
行くと〇〇がもらえる	運営	
友の会	運営	
簡単に出入りできる	運営	
年齢制限なし	運営	
語り部さん活躍！！	教育と普及	連携（ガイド）

意見	分類	補足
子供が幅広いトピックスに触れて研究テーマを決められる	教育と普及	連携（学校）
保存アドバイス、万野、用水路	教育と普及	
運営資金は外から調達	経営	
無料で入って中でお金をおとす仕組み	経営	
市民無料or学生（18まで）無料 市民ファースト他有料	経営	
ショップ（少数精鋭、在庫少、回転重視）展示以外の『目当て』を作る	経営	
一つのテーマで低学年・高学年・中学・高校・社会人の成長と共に再学習できる講座を持つ博物館	講座	
富士山噴火の歴史を磯田道史氏に監修してもらう	講座	
商店街の店内での展示もできる土器、写真、資料の展示⇒商業にぎわいづくり	サテライト	連携
他施設、図書館又交流センターの会議室、ホールの展示もできる	サテライト	連携
総合文化センターの一面に展示館（周辺撤収できる）	サテライト	
現在の「歩く博物館」を生かして、館内、外を繋ぐ博物館	市内回遊の拠点	
市内観光のベースキャンプ的な 館内に市内マップ	市内回遊の拠点	
水の豊かさ、緑の豊かさを感じられる機会	市内回遊の拠点	
頼朝の巻狩り ジオラマに小中高生が協力	市民参加	
生涯学習に資するもの	生涯学習	
発掘調査の速報・説明会	情報発信	
ショップの充実、富士宮ならではの物	ショップ	連携
コワーキング・ビジコネ・高校生会議所などのアイデアをレンタルスペースで出店できる	設備・機能	連携
市民作品の展示や民俗文化財の実演を行う（休憩スペースへの展示含む）	設備・機能	連携
コミュニケーションスペース	設備・機能	
災害時の拠点、対応	設備・機能	
カフェ付き（水車カフェなど）	設備・機能	
掘って出た水を施設内で飲料以外すべてに利用。循環する施設	設備・機能	
縄文時代の食事を体験	体験講座	施設設備（連携）
巻狩りバーチャル体験	体験講座	バーチャル
子どもつくれるように土偶・土器	体験講座	

意見	分類	補足
体験ができる、持って帰れる（着たり、食べたり）	体験講座	
体験型（楽しいばかりでなく可能性を生む）	体験講座	
体験会 水車、湧水池の再現 水を使った農作業の再現	体験講座	
見るだけ読むだけでない体験できる空間	体験講座	
バックヤードツアー	体験講座	
消失危機にある文化財を優先的 展示 掘り起こし	調査研究保存	
文化財保護	調査研究保存	
富士宮、芝川の歴史を後世へ伝える	展示	調査研究保存
方言の保存	展示	調査研究保存
祖父母世代への聞き取り保存	展示	調査研究保存
牛+馬と人間の関わり 実際に見たり実演	展示	連携
世界遺産センターとの違い、被らない工夫	展示	
目玉になる展示物	展示	
文化の交差点（東西南北）の特徴を展示	展示	
噴火の歴史とそれぞれの時代の展示がある博物館（バーチャル活用）	展示	
博物館は地域の宝と誇れる内容、企画	展示	
富士宮の特異性	展示	
習俗、道祖神	展示	
葬式	展示	
盛り場（人々の集る所）	展示	
花街、芸者	展示	
曾我物語、巻狩り	展示	
B29（戦争）	展示	
潤井川洪水	展示	
オーミケンシ労働運動	展示	
山車の展示、屋台（ex 高山の山車博物館、ディスプレイ）	展示	
妖怪	展示	
山車の展示とおはやしの常設、体験	展示	
大宮城の攻防と浅間神社	展示	
角田桜岳	展示	
情報量を受け手がコントロールできる。情報の難易度レベル別にゲーム性、攻略性をもたせる。	展示	
入れ墨の歴史とは（文化）日本における（富士宮）	展示	
日本史の中のきちんとした位置づけ	展示	
近代の生活の様子も展示	展示	
広い視野から世界に向き合えるもの（富士山の生態系の変化など）	展示	

意見	分類	補足
負の遺産も展示 ①上野村の村八分	展示	
負の遺産も展示 ②オーミケンシ	展示	
負の遺産も展示 ③オウム真理教	展示	
負の歴史をオープンに展示 ダークサイドはエンタメ	展示	
大沢崩砂防	展示	
どういう経緯でこのまちに来たか	展示	
過去より未来、将来 ドローン、水利用	展示	
湧水と共に歩んだ歴史に焦点をあてた展示 子供～大人まで体験もできる（井戸・小路）	展示	
過去の姿～今への展示	展示	
HP上でバーチャル博物館（無形文化の展示、内野の火伏や田之神送り、風祭）	展示技術	バーチャル
情報端末は据え置きだけでなく手持ちで使えるソフトウェアなどを併用。	展示技術	
触れる展示	展示技術	
展示の合間に映像解説	展示技術	
頻繁にテーマ展示を変える。（イベントでの動員を活かす）	展示方法	
湧水を活用した展示や体験会、川魚や水草、特産のマス等 湧いているエリア別に比べる	展示・体験	
富士山について、市立ならでわの市内から見た視点で歴史を学べる。	富士山展示	
バリアフリー 実際に障害のある方に監修してもらいながら	バリアフリー	
研究調査などと常に協働できる専門機関（大学etc）とコラボ	連携	
連携を取る	連携	
専門家とコンタクトしやすい博物館	連携	

◆参考事例調査

資料 3

	1	2	3	4	5	6
施設名	市原市歴史博物館	品川歴史館	茅ヶ崎市博物館	ミュージアム都留	刈谷市歴史博物館	諫早市美術・博物館
開館年／リニューアル年月	平成2年／ 令和4年11月 全面リニューアル	昭和60年／ 令和6年4月 全面リニューアル	令和4年 ※昭和46年開館の茅ヶ崎市文化資料館が前身	平成11年	平成31年	平成26年
所在地	千葉県市原市	東京都品川区	神奈川県茅ヶ崎市	山梨県都留市	愛知県刈谷市	長崎県諫早市
URL	https://www.imuseum.jp/	https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/06/historyhp/hsindex.html	https://chigamu.jp	https://www.city.tsuru.yamanashi.jp/soshiki/shougaigaku-shuu/museum_tsuru/1340.html	https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/	https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/site/bireki/
設置者	市原市	品川区	茅ヶ崎市	都留市	刈谷市	諫早市
所管	生涯学習部 文化財課	文化観光スポーツ振興部 文化観光戦略課	教育推進部 社会教育課	教育委員会 生涯学習課	市民活動部 歴史博物館課	市長部局 経済交流部文化振興課
運営主体	直営	直営	直営	直営	直営	直営
博物館登録	登録博物館	登録なし	博物館登録施設	登録博物館	登録博物館	登録博物館
公開承認	公開承認施設を目指している	承認申請の予定はない	公開承認施設	承認申請の予定はない	公開承認施設を目指している	承認申請の予定はない
年間来館者数	22,565人（2023年度）	12,801人（2021年度）	44,113人（2023年度）	5,235人（2023年度）	39,624人（2023年度）	28,811人（2023年度）
基本理念	「歴史をつなぐ、人をつなぐ」歴史をつなぎ、地域の魅力を高める。人をつなぎ、地域を活性化する。	品川の歴史を身近に感じ主体的に活動できる場「品川ライブミュージアム化！」をコンセプトに、品川区の貴重な文化と歴史にかかわる史料の収集・保存と公開、歴史の学習の場、庭園など、人々が気軽に立ち寄ることのできる交流の場としての機能を備えている。	茅ヶ崎の自然やそこで営まれた人びとのくらしを伝える資料などを、市民をはじめとする利用者と協力して活動することにより蓄積し、活用し、未来の人びとへ伝えていく。	本市の由緒ある歴史文化を積極的に保護・活用し、大名行列やお茶壺道中などをはじめとする歴史的行事、文化財、寺社などの特色ある文化資源などを活用し、情報発信するとともに、歴史文化のまちを後世へ伝え、伝承する体制づくりを推進することで、シビックプライドの醸成や、歴史・文化活動を行う人の居場所づくりを図る。	“刈谷の歴史に親しみ、見て、触れて、体験して学ぶことができる施設”	「諫早まるごと博物館」館周辺の豊富な文化財や豊かな自然、図書館や公民館などの既存施設、市内各地の資料館などとの連携の拠点としての施設。
建築概要	構造：鉄筋コンクリート造 階数：地上2階 建築面積：1,234.2㎡ 延床面積：1,640.1 ㎡	構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造 階数：地上2階、地下1階、塔屋1階 建築面積：1,226.4㎡ 延床面積：2,376.7㎡	構造：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 階数：地上2階 敷地面積：2,086.4 ㎡ 延床面積：2,005.7 ㎡ [附属施設] 民俗資料館 旧三橋家住宅、旧和田家住宅、旧藤間家住宅	構造：鉄筋コンクリート造 階数：地上 2 階 建築面積：1,532㎡ 延床面積：2,129㎡	構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 階数：地上 2 階建 建築面積：3,100.35 ㎡ 延床面積：4,263.65 ㎡	構造：鉄骨造 階数：地上3階（2 階＋展望テラス） 建築面積：2,132.6㎡ 延床面積：3,292.3㎡
延床面積	1,640.1 ㎡	2,376.7㎡	2,005.7 ㎡	2,129㎡	4,263.65㎡	3,292.3㎡

	1	2	3	4	5	6
施設名	市原市歴史博物館	品川歴史館	茅ヶ崎市博物館	ミュージアム都留	刈谷市歴史博物館	諫早市美術・博物館
主な諸室機能	常設・企画展示室：421㎡ 民俗展示室：108㎡ 多目的室：126.6㎡ 多目的体験室：－ 情報コーナー：－ 事務室：－ ミュージアムショップ：－ エントランスホール：－	常設展示室：180㎡ 企画展示室：93.4㎡ しながわナビ：91㎡ しながわラボ：72㎡ ライブラリー：78㎡ 一時保管庫：14.7㎡ 収蔵庫：246.9㎡ 簡易収蔵庫前室：3.2㎡ 簡易収蔵庫：102.1㎡ 書庫：47.3㎡ エントランス・ロビー：－	基本展示室：222㎡ 企画展示室：54㎡ 一時保管庫：24㎡ 収蔵庫：353㎡ 資料整理・調査研究室：－ 図書室：－ 書庫：89㎡ 市民交流スペース：340㎡	常設展示室：432㎡ 企画展示室：234㎡ 一時保管庫：32㎡ 収蔵庫：309㎡ 学芸員室：57㎡ 研究室：48㎡ 研修室：73㎡ 講堂：122㎡ 事務室：71㎡	常設展示室：277㎡ 祭り展示室：235㎡ 企画展示室：204㎡ 準備室：74㎡ 収蔵庫前室：28㎡ 収蔵庫：303㎡（十中2階228㎡） 遺物収蔵庫：186㎡ 遺物整理室：113㎡ 資料整理室：91㎡ 資料閲覧室：33㎡ 図書収蔵庫：143㎡ 写場：31㎡ 講座室：138㎡ 体験学習室：56㎡ 図書コーナー：－ 会議室：30㎡ 事務室：73㎡ ミュージアムショップ：－ エントランス：270㎡	常設展示室：383㎡ 企画展示室：86㎡, 93㎡, 125㎡ 収蔵庫・前室：－ 倉庫：－ 作業室：－ 研修室（計3室）：175㎡ 和室：31㎡ 事務室：－ 会議室：－ ホール：170㎡ エントランスホール：－
展示面積	529㎡	273㎡	276㎡	966㎡	716㎡	687㎡
常設展示	「自然環境への適応（旧石器～縄文時代）」「フサの原像（弥生～古墳時代）」「国府は市原郡にあり（古代・中世）」「民衆のちから（近世）」「農・漁村から工業都市へ（近代～現代）」「くらしの姿と生活道具（民俗）」の6つのテーマで構成。	原始・古代／中世／近世／近現代の4期に分けて、品川エリアの通史を網羅的に紹介。	茅ヶ崎の大地をの5つの地形に分け、地形の特徴ごとに17のテーマで紹介。8つあるユニット形式の展示台に、17のテーマを定期的に入れ替え。 [例] 期間：令和5年1月5日～5月21日 テーマ：縄文の海、田舟のあった風景、まちなかの自然、低地に生きた人々、茅ばあさんの一生 期間：令和5年5月27日～10月22日 テーマ：海へのいのり、砂を防ぐ、繭と糸で産業を、谷にくらす動植物、地震で現れた橋	都留市の歴史を紹介する映像「城下町都留探訪」や電子紙芝居「芭蕉劇場」、アニメーションによる「郡内縞物語」。八朔祭で使用する屋台とその屋台を彩る飾り幕や、中谷遺跡出土の「耳飾りをつけた土偶」などを紹介。	刈谷の特徴的な3つの時代「刈谷の縄文時代（縄文時代）」「刈谷藩と城下町（戦国・江戸時代）」「刈谷発の近代化（明治・大正・昭和時代）」と「刈谷の偉人たち」、「体験コーナー」で構成。	「諫早の変遷」「諫早の歴史」「諫早の美」「諫早歴史学習コーナ」の4つのコーナーで構成。

	1	2	3	4	5	6
施設名	市原市歴史博物館	品川歴史館	茅ヶ崎市博物館	ミュージアム都留	刈谷市歴史博物館	諫早市美術・博物館
教育普及	[主な事業] ・講座・講演会 ・ワークショップ ・街歩きイベント ・バスツアー [主な学校連携事業] ・団体見学・体験受け入れ ・高校や大学との連携 ・博物館実習	[主な事業] ・歴史講座	[主な事業] ・ワークショップ [主な学校連携事業] ・学校による見学 ・総合的な学習の時間 ・職場体験 ・出前授業	[主な事業] ・講演会 ・寺子屋講座 ・体験講座 ・刀装具講座 ・古文書講座 ・民話会 ・折り紙教室 [主な学校連携事業] ・団体見学受け入れ ・高校への講師派遣 ・職場体験 ・博物館実習	[主な事業] ・講演会 ・出前講座 ・古文書解読講座（連続講座） ・歴博ゼミナール ・歴史体験講座 ・簡単工作 ・子ども歴史体験講座 [主な学校連携事業] ・市内外の学校による見学受入 ・職場体験 ・教員による見学受入 ・教育支援 ・博物館実習	[主な事業] ・館長講座 ・歴史講座 ・民俗講座 ・史跡見学 [主な学校連携事業] ・小学校の郷土学習 ・中学校の郷土学習 ・特別支援学校の郷土学習 ・研修 ・博物館実習
調査研究	[刊行物] ・展示図録 [資料データベース] ・市原電脳博物館 https://jmapps.ne.jp/iom/	[刊行物] ・紀要（年1回発行） ・展示図録 ・常設展示解説シート [資料データベース] なし ※品川区立図書館が運用する「しながわデジタルアーカイブ」に歴史館所蔵資料が一部含まれる。	[刊行物] ・研究紀要（年1回発行） ・年報（年1回発行） [資料データベース] ちがだべ（デジタルアーカイブ） ※博物館、図書館、市史編さん、美術館に収蔵されている資料・図書・収蔵品等をオンラインで閲覧。	[刊行物] ・展示図録 [資料データベース] なし	[刊行物] ・歴史博物館ニュース ・年報（年1回発行） ・研究紀要（年1回発行） ・刈谷市歴史博物館要覧 ・文化財関係パンフレット ・報告書 [資料データベース] 資料閲覧室のパソコン端末で検索が可能。	[刊行物] ・年報（年1回発行） ・開館10周年記念誌 [資料データベース] ※博物館法の一部改正に伴い、博物館資料のデジタル・アーカイブ化が努力義務とされたため、収蔵資料の管理について、これまでの台帳管理から、クラウド型の収蔵品管理システムを導入し、データ整理を実施。
広報ツール	・公式ホームページ ・SNS(X、Facebook、YouTube) ・自治体広報紙（年12回）	・公式ホームページ ・品川区公式SNS（X、Facebook、Instagram、YouTube） ・「広報しながわ」 ・PR TIMES	・公式ホームページ ・自治体広報紙（年10回） ・記者発表（年5回） ・デジタルサイネージ（年6回） ・タウンニュース（連載「学芸員のイチ推し！」）（年12回） ・SNS（X（年64回）、Facebook（年107回）、Instagram（年137回）、Line(年14回)）	・公式ホームページ ・SNS（X、nstagram） ・「広報つる」 ※企画展・イベント情報を掲載。音声化した広報誌YouTubeも配信	・公式ホームページ ・SNS（X） ・市民だより ・「博物館かわら版」（年3回発行）	・公式ホームページ ・Instagram(74回投稿) ・美歴だより(年に数回発行 不定期) ・エフエム諫早 「レインボーFM」に毎月出演し、企画展や講座、史跡巡りなど館の主な事業を紹介。 ・フリーペーパー、新聞などの紙媒体（広報いさはや、ナイスいさはや、face isahaya、長崎新聞、毎日新聞、ながさきプレス） ・テレビやラジオなど（諫早ケーブルメディア/ひまわりテレビ、NHK、NBC、NBC ラジオ）

	1	2	3	4	5	6
施設名	市原市歴史博物館	品川歴史館	茅ヶ崎市博物館	ミュージアム都留	刈谷市歴史博物館	諫早市美術・博物館
連携機関等	千葉市立加曽利貝塚博物館 ふるさと市原をつなぐ連絡会 千葉県立姉崎高等学校「ふるさとの歴史を愛する会」 千葉大学	しながわ観光協会 品川区国際友好協会	神奈川県歴史博物館 鶴嶺公民館 小和田公民館 図書館 青少年会館 体験学習センター 青少年課 ちがさき丸ごと博物館の会 丸博友の会	「ミュージアム甲斐・ネットワーク」加盟 都留文科大学地域交流研究センター（THMC） 都留文科大学 山梨県埋蔵文化財センター	高浜市かわら美術館 愛知県陶磁美術館 愛知教育大学・市内学校連携	宮崎県総合博物館
施設貸出	なし	あり	なし	なし	なし	あり
友の会・サポーター	[友の会]なし [サポーター] 市民学芸員「アイミュージアムサポーター」 概要：いちほら市民大学「歴史文化リエゾンコース」修了者は、「歴史文化リエゾン」の資格を取得し、博物館の「アイミュージアムサポーター」への登録後、調査研究・普及活用・史跡整備等の活動を行う。	[友の会]なし [サポーター]なし ※品川エリアの観光ボランティア団体「ガイドしながわ」で、歴史館学芸員と協働したガイド養成講座やツアー研修を定期的を実施。	[友の会]なし [サポーター]なし	[友の会]なし [サポーター]市民学芸員「谷の町、史の里案内人」」 概要：史跡などをめぐる散策コースを案内するボランティアガイド。養成講座を修了した資格認定者は、博物館に市民学芸員として登録され、活動を行う。	[友の会]なし [サポーター]なし	[友の会]なし [サポーター]なし
運営体制	[運営体制]（2023年度） 常勤職員：6人 非常勤職員：10人 [審議会等] 市原歴史博物館協議会	[運営体制] ＊調査中 [審議会等] 専門委員会あり	[運営体制]（2023年度） 常勤職員：7名 （館長、学芸員2名、事務員4名） 会計年度任用職員：8名 （学芸員4名、事務員4名） [審議会等] 茅ヶ崎市博物館協議会	[運営体制] ＊調査中 [審議会等] 都留市文化財審議会 都留市博物館協議会	[運営体制]（2023年4月1日現在） 館長（郷土資料館長兼務）：1名 館長代理：1名 指導主事（郷土資料館兼務）：1名 ※現職教員 事務職員：4名（育児休業取得者2名含む） 学芸員（うち1名郷土資料館兼務）：8名(考古3名、歴史4名、美術1名) 会計年度任用職員：30名 [審議会等] 刈谷市歴史博物館協議会 刈谷市文化財保護審議会	[運営体制]（2024年6月現在） 常勤職員：3名 （副館長、主任、事務職員、そのうちうち学芸員1名） 会計年度任用職員：8名 （館長、主任専門員2名、専門員2名、受付案内員3名、そのうち学芸員3名） [審議会等] ※該当なし
事業評価制度	あり	あり	あり	あり	あり	なし

◆事業活動計画 検討資料

1 基本理念

富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、 人づくりの拠点

富士宮市の歴史・文化に親しみ理解を深める機会をととして、
市民が、郷土・富士宮市への愛着と誇りを持ち、
自分自身の豊かな未来と富士宮市の将来に向けて行動できるよう、
探究心を刺激し、多様な学びや体験を生み出す場とします。

2 市民と共につくる博物館

本博物館では、市民と連携した「人づくりの拠点」として、以下の役割を果たすことを目指します。

≪ 役割 ≫

富士宮市の歴史・文化に親しむ [出会い・発見の場]

- ・富士宮市の歴史文化資源をととして、市民や多様な利用者が富士宮市の歴史・文化に親しむ場と、学ぶきっかけとなる体験を提供します。
- ・あらゆる世代の人々が気軽に訪れ、憩い、交流し、活動を行うことができる開かれた空間を備えます。
- ・市民や多様な利用者の様々な活動に利用することができる空間を提供します。

富士宮市でいきいきと輝く市民による [探究・創造の場]

- ・富士宮市の歴史と文化を学び、自ら調べる活動をととして、より多くの市民が郷土への理解と愛着を深め、生きがいや心の豊かさを実感できるよう、多様な探究と創造の機会を提供します。

富士宮市の顔となる [歴史・文化の中核]

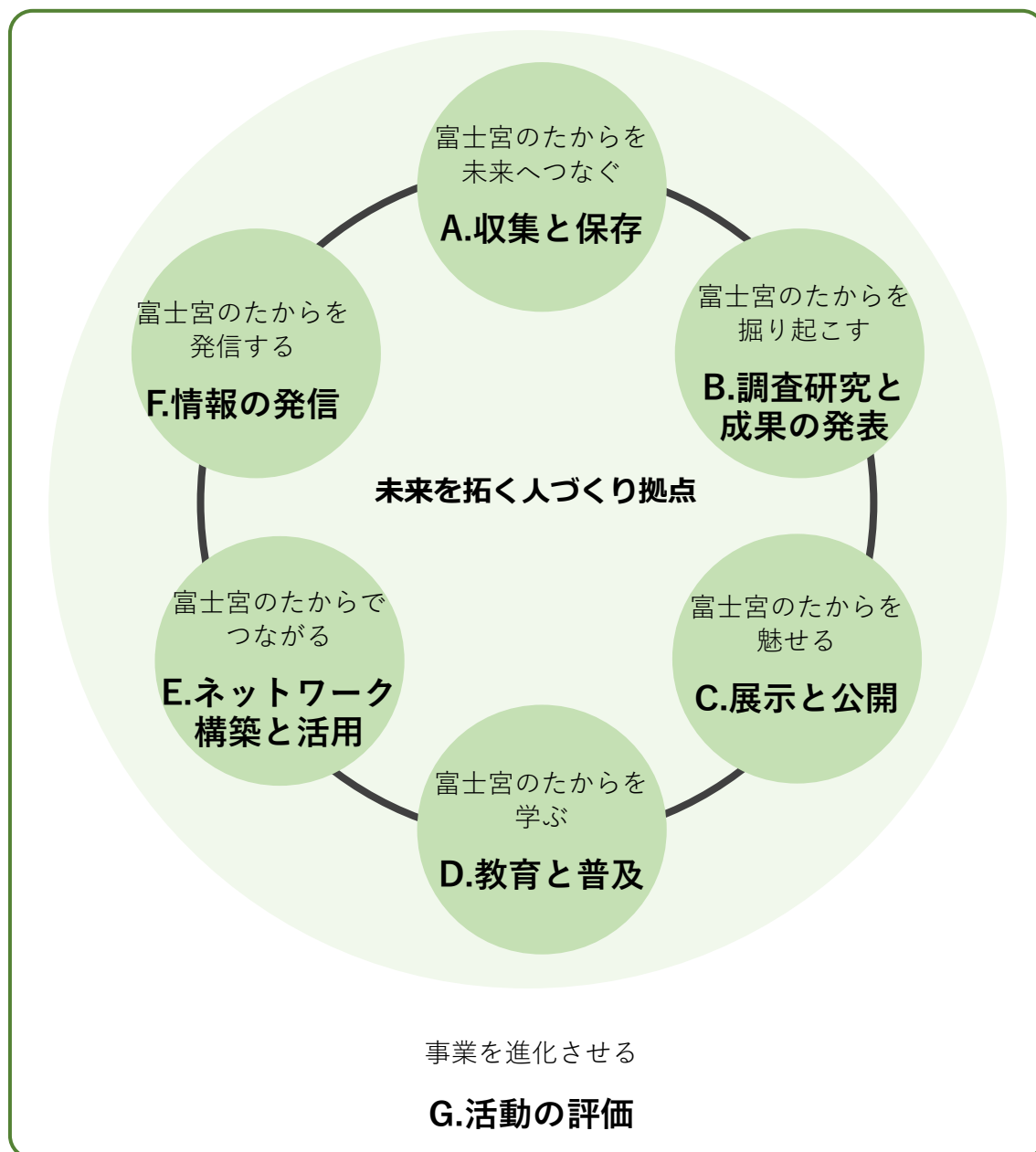
- ・市民や多様な利用者が、富士宮市の歴史・文化の全体像を把握し、市内に数多くある歴史文化資源や世界遺産富士山の構成資産等を知り、市内を巡るきっかけを提供します。

出典：（仮称）富士宮市富士宮市郷土史博物館基本構想

3 展開する事業活動

「1 基本方針」「2 市民と共につくる博物館」の《役割》を実現し、富士宮市の未来を拓くため、「A.収集と保存」、「B.調査研究と成果の発表」、「C.展示と公開」、「D.教育と普及」、「E.ネットワーク構築と活用」、「F.情報の発信」、「G.活動の評価」の7つの活動を展開します。

【未来を拓くサイクル】



4 事業活動計画（案）

A 収集と保存 —富士宮のたからを未来へつなぐ—

A-1 富士宮市の歴史・文化を語るための資料を収集します。

- ① 富士宮市の歴史・文化に関する考古・歴史・美術工芸・民俗等の実物資料を体系的に収集します。
- ② 富士宮市の歴史・文化の調査研究に必要な文献・映像・音声等の二次資料も収集します。
- ③ 受贈・寄託・購入により収集します。
- ④ 資料収集方針を策定し、調査研究や展示を行う上で不可欠な資料を選定して収集します。

[主な必要機能・要素等]

・搬入口・トラックヤード・荷解室、一時保管庫、収蔵庫前室、考古資料整理室、歴史資料整理室、収蔵庫（考古・歴史・美術工芸・民俗等）、資料保管室（考古・二次資料等）、資料撮影室、資料閲覧室 等

A-2 富士宮市の貴重な歴史文化資源を未来へ継承します。

- ① 個人が所有する歴史資料等や地域にある歴史文化資源の保存や継承について、気軽に相談できる問合せ窓口を設置します。
- ② 資料の特性に応じた保存環境と、将来的な収集を踏まえた十分な規模の収蔵空間を、本施設や既存施設の活用等も含めて確保します。
- ② 文化財 I P M（総合的有害生物管理）※を導入します。

[主な必要機能・要素等]

・搬入口・トラックヤード・荷解室、収蔵庫前室、考古資料整理室、歴史資料整理室、収蔵庫（考古・歴史・美術工芸・民俗等）、資料保管室（考古・二次資料等）、資料撮影室 等
・文化財 I P Mを行うための保存管理体制

※文化財 I P M（Integrated Pest Management）：資料を適切な保存環境で保持することで生物被害の防止を目指す文化財管理の技術。外部からの害虫の進入、屋内での営巣・繁殖を防ぐために適した建築や設備を備えるとともに、適切な日常管理を行う

A-3 富士宮市の歴史文化資源に関する情報を収集・整理・蓄積します。

- ① 収蔵資料に関する情報を収集・整理し、収蔵資料データベースとして蓄積します。
- ② 埋蔵文化財センターが収蔵する資料に関する情報も一元的に管理します。
- ③ 市内に点在する歴史文化資源や、無形の文化財などに関する情報を、市民とともに収集・整理し、歴史文化資源データベースとして蓄積します。

[主な必要機能・要素等]

- ・収蔵資料データベース、歴史文化資源データベース
- ・デジタルアーカイブを整備・推進するための人員体制

B 調査研究と成果の発表 —富士宮のたからを掘り起こす—

B-1 市民の活動に資する調査研究を行います。

- ① 富士宮市の歴史・文化の特徴を掘り起こすための調査研究を行います。

[主な必要機能・要素等]

- ・調査研究室、書庫、倉庫
- ・収蔵資料データベース、歴史文化資源データベース、WEBサイト※

※WEBサイト：博物館の利用促進を図るため、インターネット上で、交通アクセス等の基礎情報や、展覧会等の事業活動に関する最新情報、調査研究の成果などを発信するための情報媒体

B-2 市民による調査研究を支援します。

- ① 小中学校での地域学習「富士山学習」や部活動、個人・団体による富士宮市の歴史・文化の研究活動に対して、調査研究に関する情報や活動場所を提供します。
- ② 市民等による調査研究の成果を蓄積する場として、歴史文化資源データベースを構築します。
- ③ 収蔵資料データベース、歴史文化資源データベース、市民等による活動の成果にアクセスしやすい環境を整備します。

[主な必要機能・要素等]

- ・市民研究室
- ・収蔵資料データベース、歴史文化資源データベース、WEBサイト

B-3 市民による調査研究の成果を本施設のさまざまな活動に活用します。

- ① 市民等による調査研究の成果を館内で展示します。また、発表する機会を提供します。
- ② 「歩く博物館」事業をはじめとする市内の回遊促進につながる取組等、幅広く活用します。
- ③ 研究発表会や研究紀要への掲載などを支援します。

[主な必要機能・要素等]

- ・ 市民研究室、常設展示室、企画展示室、講座室
- ・ 常設展、企画・特別展、研究発表会、館の発行物

C 展示と公開 —富士宮のたからを魅せる—

C-1 富士宮市の歴史・文化を概観する展示と特徴的なテーマで深掘りする展示を組み合わせて展開します。

- ① 富士宮市の全体像を理解する「総合展示」と、富士宮市の歴史・文化への理解を深める「テーマ展示」を行います。「総合展示」では、富士宮市の歴史・文化と、自然を背景とした人々の営みを一体的に紹介します。「テーマ展示」では、「交流」「暮らし」「祭り」など特定のテーマを設けて紹介します。
- ② 学芸員や市民による調査研究の成果を活用し、富士宮市の歴史・文化の価値や魅力を発信する「企画展示」を行います。
- ③ 富士宮市の歴史文化資源の拠点として、その価値や魅力とともにアクセス情報を提供し、現地へと誘います。
- ④ WEBサイトやSNS等を活用し、来館前から来館後まで、資料や富士宮市の歴史・文化への理解を深めることができる仕組みを整備します。

[取り組み例]

博物館のHP上でワークシート等を掲載し、来館して博物館の展示を通して学び、現地へ誘導する仕組み 等

[主な必要機能・要素等]

- ・ 常設展示室、企画展示室、展示準備室、一時保管庫
- ・ 館内外で利用できる展示解説、WEBサイト・SNS

C-2 富士宮市の歴史・文化の入口として、親しみやすい展示とします。

- ① 子どもたちが富士宮市の歴史・文化に興味を持ち、楽しみながら理解を深めることができるよう、体験型展示や映像による展示解説などを導入します。
- ② 実物資料のほか、複製資料、模型、ジオラマ※、グラフィック※、映像、ICT※等の多彩な手法を組み合わせ、分かりやすく、親しみやすい展示とします。
- ③ 国宝・重要文化財の公開に必要な設備や管理体制を備えます。
- ④ より多くの資料を公開します。
- ⑤ 障害の有無や言語にかかわらず、市民や多様な利用者が等しく、楽しく学べる展示とします。

[主な必要機能・要素等]

- ・ 搬入口・トラックヤード・荷解室、収蔵庫前室、展示準備室、常設展示室、企画展示室
- ・ 体験型展示、映像や音声、触図等による解説

※ジオラマ：背景画と立体物を組み合わせて、ある場面を再現する展示手法

※グラフィック：写真やイラスト、図形などを組み合わせた解説パネル

※ICT（Information and Communication Technology）：通信技術を活用したコミュニケーション

※SNS（Social Networking Service）：インターネット上で、人々が社会的なつながりを持つためのサービス

C-3 学芸員と市民を両輪とする調査研究の成果を展示に活用します。

- ① 学芸員による調査研究や市民による調査研究の成果を活用した展示とします。
- ② 最新の調査研究成果を反映するため、更新性や可変性を考慮した展示とします。

[主な必要機能・要素等]

- ・ 常設展示室、企画展示室、市民研究室

D 教育と普及 —富士宮のたからを学ぶ—

D-1 あらゆる世代の人々が、富士宮市の歴史・文化に親しみ、理解を深めるための多様な学びや体験の機会を提供します。

- ① 富士宮市の歴史・文化を学び、理解を深めることのできる講演会や講座、学習プログラム等を展開します。
- ② 子どもたちが富士宮市の歴史・文化を楽しみながら理解できる体験型の普及プログラムを作成するとともに、親子で学ぶことができる機会を提供します。

[取り組み例]

昔のあそび体験、ファミリー向けガイドツアー 等

- ③ 小中学校による地域学習「富士山学習」の場として、情報提供などの研究支援を行います。
- ④ 学校教員等と連携して、学校教育と連動した学習プログラムや学習教材の作成に取り組みます。

[取り組み例]

収蔵資料のレプリカやワークシートなどで構成する貸出用学習キット、社会科副読本と連携した学習プログラム 等

- ⑤ 利用者が収蔵資料の整理作業等の様子を見ることができる機能を確保します。
- ⑥ ボランティアによる展示解説を行います。そのための人材育成プログラムを作成・展開します。
- ⑦ 大学から博物館実習生を受け入れます。

[主な必要機能・要素等]

- ・ 講座室、ワークショップルーム、地域学習スペース、図書・情報室
- ・ 教育普及担当職員、ボランティア、展示解説

E ネットワーク構築と活用 —富士宮のたからでつながる—

E-1 社会教育・生涯学習の拠点の一つとして、多様な主体と連携します。

- ① 市内で活動する個人・団体と連携し、郷土愛の醸成や市民の生きがい創出に寄与する活動を展開します（郷土史研究を行う団体、伝統文化の保存・継承団体、地域の観光ガイドを行う団体、高齢者福祉施設等）。
- ② 教育委員会や学校団体と連携し、「富士山学習」など児童生徒による地域学習に寄与します。
- ③ 市内の観光案内施設や公民館等と連携し、施設周辺の歴史文化資源に関する情報を発信します。
- ④ 世界遺産富士山を紹介する施設のほか、大学、専門研究機関、他の博物館施設等と連携し、世界遺産富士山の構成資産に関する共同研究、共同企画展等を行うほか、それらの取り組みについて情報発信します。
- ⑤ 歴史文化資源の管理者等と連携し、地域文化の継承と振興に寄与します。文化財を良好な状態で保全・継承するための情報を提供します。

E-2 富士宮市の歴史文化資源に関連する組織や取組と連携し、市内の回遊促進に寄与します。

- ① 富士宮市が展開する「歩く博物館」事業や世界遺産富士山の取組と連携し、市内に数多くある歴史文化資源を巡るルートを紹介します。
- ② 市民団体等と連携し、ガイドツアーを展開します。

E-3 本施設で収集・蓄積した歴史文化資源に関する情報を活かし、地域資源の継承や活用に貢献します。

- ① 多様な分野の機関・団体等と連携し、富士宮市の活性化につながる新たな取り組みの創発を目指します。

※具体的な展開は「ネットワーク計画」に掲載します。

F 情報の発信 —富士宮のたからを発信する—

F-1 博物館の活動とその成果を広く発信します。

- ① 富士宮市の「たから」である歴史文化資源の価値や魅力を発信します。
- ② 展示や学習プログラム等、活動の最新情報を、多様な人々に向けて発信します。
- ③ 学芸員や市民等による調査研究の成果を、多様な情報媒体を活用し、広く発信します。

[主な必要機能・要素等]
・WEBサイト・SNS、博物館報・研究紀要等の発行物

G 活動の評価 —活動を進化させる—

G-1 市民の立場に立った博物館運営を目指し、事業活動に対する評価・改善の仕組みを導入します。

- ① 自己評価と外部評価により活動を検証し、その結果を踏まえて事業展開を進化させます。

[主な必要機能・要素等]
・自己評価システム、外部評価システム

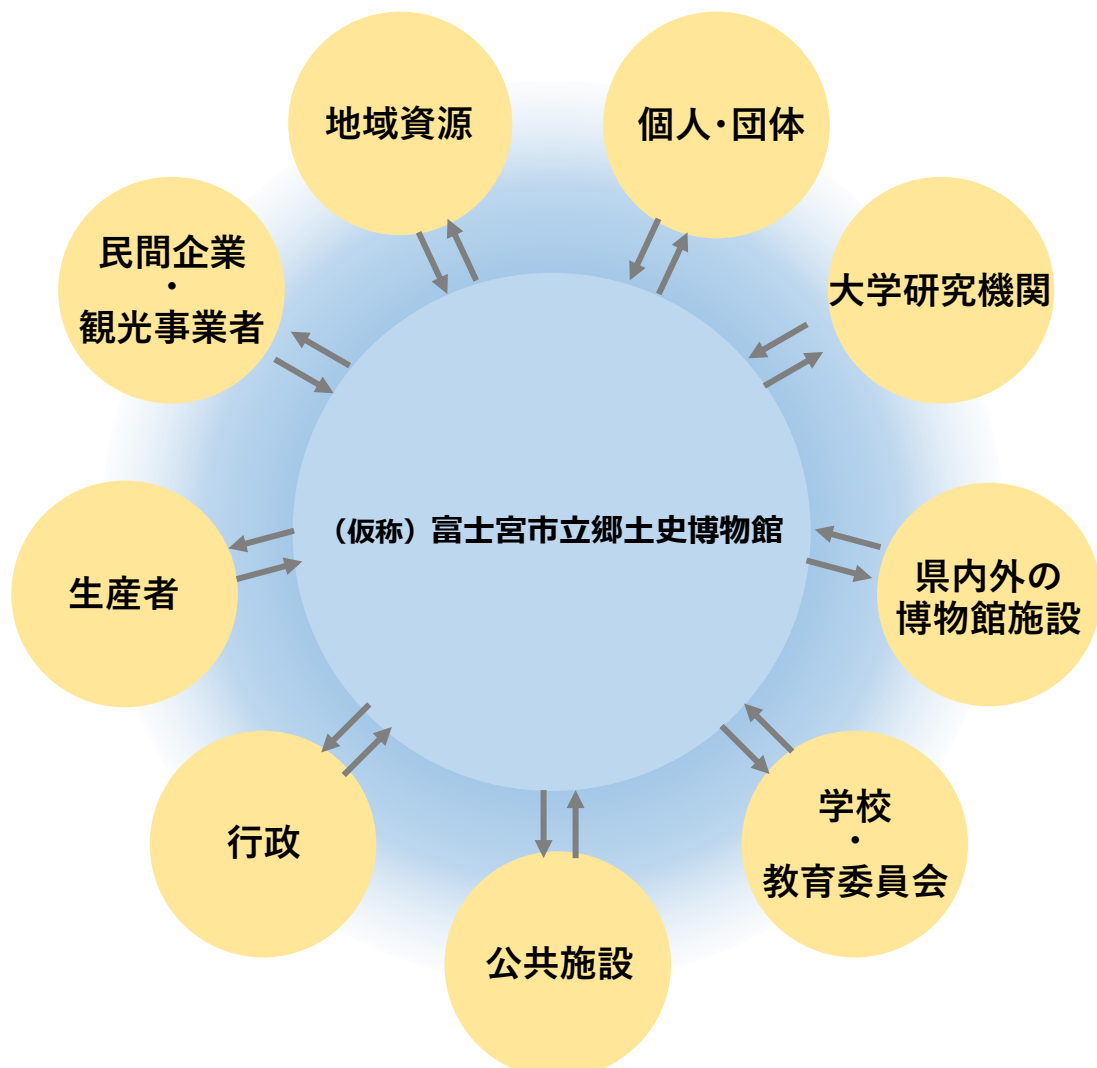
◆ネットワーク計画（案） 検討資料

（1）ネットワークの形成に向けて

本施設では「出会い・発見の場」「探究・創造の場」「歴史・文化の中核」として、多様な人々や機関・団体等との連携・協力により事業活動を展開します。連携・協力することで本施設の取り組みを多様な分野へと拡大し、富士宮市全体の活性化へ貢献します。

- ・幅広い分野において富士宮市の歴史文化資源の継承に取り組む団体等に対して、本施設の活動内容等に関する情報提供等を行い、開館後の連携・協力のあり方を検討します。
- ・開館前から連絡会議等を設置し、ネットワーク形成に取り組みます。
- ・ネットワークの構築と活用を円滑に進めるため、そのマネジメントを行う人材を配置します。

【ネットワークのイメージ図】



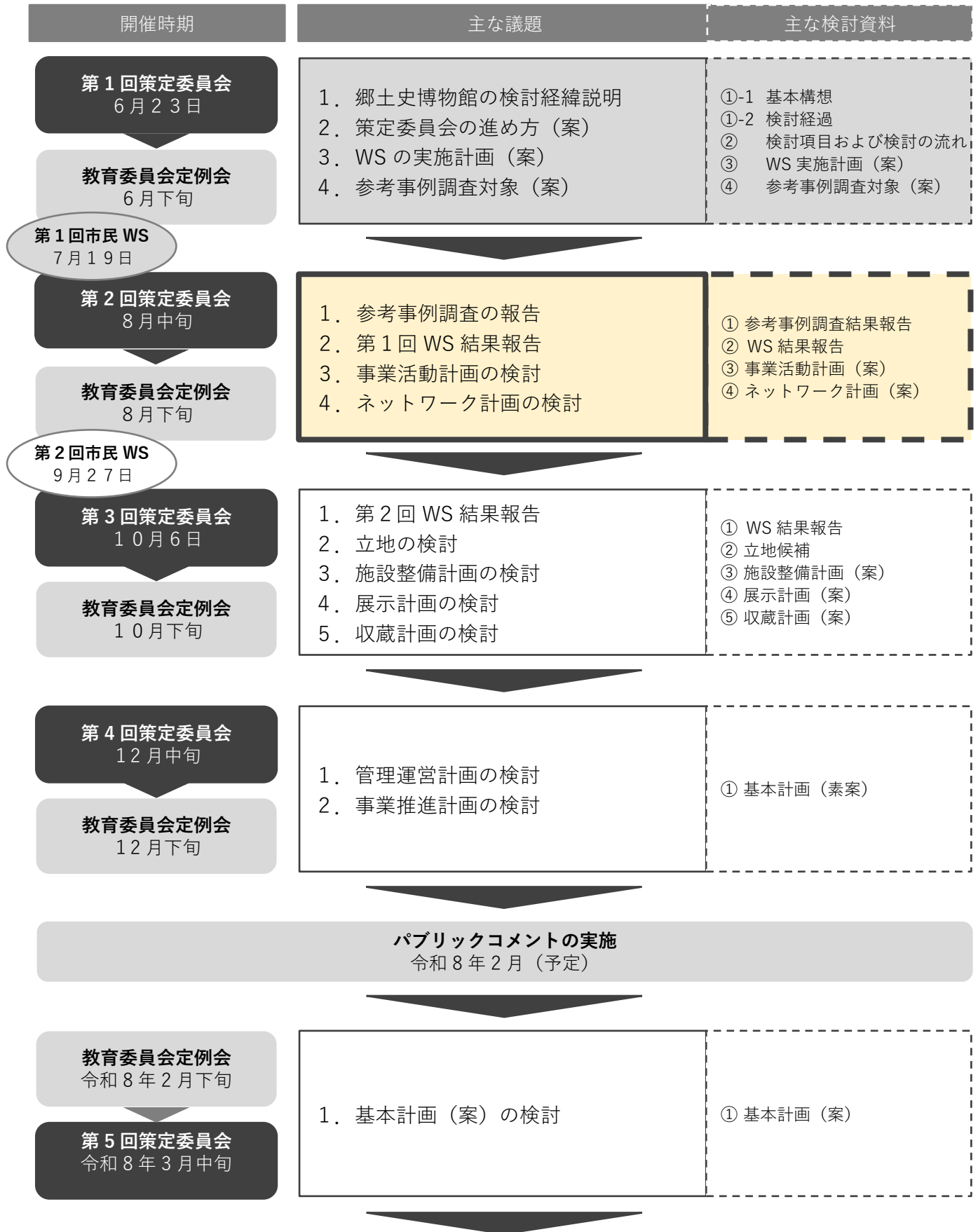
(2) ネットワークの展開

本施設で収集・蓄積した資料や情報、調査研究に係るノウハウや成果を活かしながら、下記のような連携事業を展開します。

【連携先と連携事業（例）】

主な連携先		主な連携事業例
個人・団体	・地域おこしに取り組む個人・団体 ・歴史文化資源の調査研究に取り組む個人・団体 ・国際交流に取り組む個人・団体 ・町内会、自治会 等	・歴史文化資源に関する共同研究 ・歴史文化資源を巡るガイドツアー ・館内ガイドボランティア ・体験プログラムの運営協力 ・多言語対応 等
大学研究機関	・大学・研究機関 等	・学習プログラムの研究開発 ・共同研究 ・館内ガイドボランティア 等
県内外の博物館施設	・静岡県富士山世界遺産センターや奇跡博物館など、市内の博物館施設 ・県内外の博物館施設	・市内の歴史文化資源に関する共同研究 ・共同企画展 ・相互の情報発信 等
学校 ・ 教育委員会	・保育園、認定こども園、幼稚園 ・小学校・中学校 ・高校・特別支援学校 等	・体験プログラム・学習プログラムの共同開発 ・「富士山学習」の支援 ・地域学習用教材の作成 ・歴史文化資源データベース 等
公共施設	・図書館、市民文化会館 ・公民館、地域学習センター ・児童館 等	・共同研究、共同企画展 ・「宮ゼミ」等、地域学習プログラムの共同開発 ・講演会、講座 等
行政	・企画戦略課、富士山世界遺産課、市民交流課、農業政策課、観光課、商工振興課、福祉企画課、高齢介護支援課、こども未来課 等	・データベースの構築・運用 ・地場製品の販売支援 ・市民活動の活性化 ・高齢者の生きがいづくり 等
生産者	・地域事業者 等	・体験プログラムの企画・講師派遣 ・本施設での地場産品販売 ・ミュージアムグッズの共同開発 等
民間企業 ・ 観光事業者	・公共交通事業者 ・観光事業者 ・報道機関 ・高齢者福祉施設 等	・本施設と歴史文化資源とをつなぐ交通アクセス協力 ・市内観光ツアーの開発 ・回想法の実践 等
地域資源	・歴史文化資源の保存会 ・文化財所有者 等	・文化財の保存・管理 ・民俗芸能の実演 ・「歩く博物館」など周遊ルートの設定等

◆検討の進め方



（仮称）富士宮市郷土史博物館基本計画